

2002年 ISAF 総会 報告書

清水 昭

Medical Commission

医事委員会 11月8日(金) 14:30~18:00

医事委員会は Executive Committee の諮問委員会として、非公開で行われる。

Margriet Pannevis (NED) Chairman

Peter van Aanholt (NED)

Luca Ferraris (ITA)

Frank Newton (GBR)

Akira Shimizu (JPN)

Benedict Tan (SIN)

Yannis Vogiatzis (GRE)

Robin Wallace (USA)

Paul Henderson (President, ISAF)

Arve Sundheim (Secretary General; ISAF)

議事録

1. 前回の議事録の確認

2. ISAF ANTI-DOPING CODE / ISAF REGULATION 21 について

Regulation 21.2.8 の検体採取と Regulation 21.3.4 の検体解析について IMC (医事委員会) がサポートする。

3. WADA について

ISAF 事務局長から ISAF と WADA は 2003 年 1 月 1 日から 3 年間大会期間以外でもドーピング検査をすることを契約した。アテネのオリンピックでのドーピングの仕方を IOC と協議していく。対象者はオリンピック種目の上位 20 名をランキングリストから選ぶ旨の報告があった。

4. ドーピングの救済申請書について

ドーピングの情報を WEBSITE で流し、セーラーから直接受け取る様式を採用。3 人救済したが、数が少なすぎるのはセーラーに認識されていないためであり

啓蒙活動の推進と各国協会の医事委員長に此の旨を伝えることとした。

5 . 薬物使用許可申請書について

申請書の形式、内容について検討し、書式を決めた。

6 . IOC 医事委員会報告

IOC 医事委員会が10月にローザンヌで開かれ、出席した ISAF 医事委員長から報告があった。(IOC WEBSITE 参照)

7 . セーリング中の怪我防止プログラムについて

SUE CRAFER (PHYSIOTHERAPIST)による教育講演が今年もスパレガッタで行われ、好評を博した。

・ セーリングにおけるバイオメカニズムの機能的解析—

身体を艇のマストとハリヤードに例えて解析した

艇の整備と同じように身体の手入れをすること

腰(脊柱, 大腿)を中心に平素から筋肉トレーニングをすること

レース(セーリング)の後ストレッチを十分すること。

ボート上とボート外のトレーニングの比率はフィンランドで50%ずつ, オーストラリアの女子で60対40である。

これらを ISAF ワールドユースの期間に高遠してもらおう事を小生が提案し受け入れられた。

8 . アテネオリンピックについて

アテネオリンピック時にドーピングと同時に医事サポートサービスをする方向で準備していると Yannis Vogiatis (GRE) から報告があった。

9 . 体重計測について

49er と Yngling クラスの体重計測の時期と有効な手段について協議した。

Yngling クラスは来年も今年と同じ方法で体重計測をする。

10 . マリファナ

今まで通りオリンピック以外では制裁しない。

1 1 . 諮問

ドーピングと体重検定について、Executive Committee に諮問する .

1 2 . その他

PAUL と ARVE が何故、今回、医事委員会を 1 0 月にサウスハンプトンで開こうとしたかの説明が会ったが、主旨は一部理解できるが、今まで通り総会で開く事で決着した .

一人乗りの外洋レースに参加するセーラーは事前に医学と身体検査を受けることをオセアニック委員会に勧告する .